



Title	巻頭言：花粉症は何故増加しているのか？
Author(s)	荻野， 敏
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2006, 12(1)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56700
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

巻 頭 言

花粉症は何故増加しているのか？

Why Is Pollinosis Increasing?

6, 7 年前にも本誌に花粉症についての総説を書いた。それ以後も花粉症は増加し続けている。特に昨年(2005 年)のスギ花粉飛散量は極めて多く、初めて発症した人も少なくないであろう。何ゆえ(スギ)花粉症は増加し続けているのであろうか？私の独善的な考えであるが述べてみたい。根本においては我々日本人の生き方にも関係してこよう。

ある疾患が増加することにおいてはほとんどの場合原因がある。花粉症でいうならば花粉に原因を求める場合と、患者に求める場合の大きく2つがある。またそれを取り巻く環境因子が大きな影響を与えてはいるが。

(スギ)花粉に原因を求めることができるか？飛散は徐々にではあるが確実に増加している。何万年も前からこの樹木は存在していた。しかし患者の発生、増加はこの数十年である。スギは風媒花であり、種族保存のために多くの花粉を作り、遠くまで飛ばす。それができない樹木では種族保存はできない。いかえればスギも精一杯生きてきた。スギに何の罪があるのか？

我々ヒトに原因があるのか？遺伝的にかかりやすくなっていることは確実であろう。しかしその変化する確率よりはるかに速いペースで患者は増えている。我々を取り巻く環境にその原因を求めるのが一般的である。しかしほとんどの環境因子の変化は我々自らが作り出している。環境汚染、食生活の欧米化、ストレスの増加など多くの因子が挙げられている。それらの複合汚染ともいえる。

本来日本人は自然と共存してきた。遺伝的にも(糖尿病の増加で分かるように)そのようになっていたと思う。それがどの時点からか狂ってきた。いつからか人間が自然を支配する(できる)という大きな誤りをおかし始めた。日本人の体質には肉より魚が向いている、米食が向いている、日本人にあったお酒もあろう。しかしこれらを考えずにより快適な生活を求め日本は世界で伸びてきた。このような歪みがいろいろな疾患をもたらした。私の独善であるが、花粉症の増加はこのような驕りがもたらしたものであろう。神からの警告であるかもしれない。我々日本人は自然と共存しながら(自然に対して頭をたれて)生きていくのが本来の姿である。そうすれば多少時間はかかるかもしれないが花粉症はもとより生活習慣病も減少していくものと私は信じている。

大阪大学大学院医学系研究科
保健学専攻 統合保健看護学分野
看護実践開発科学講座(成人・老人看護学講座)

荻 野 敏